地域医療教育 ―研修医・専攻医―

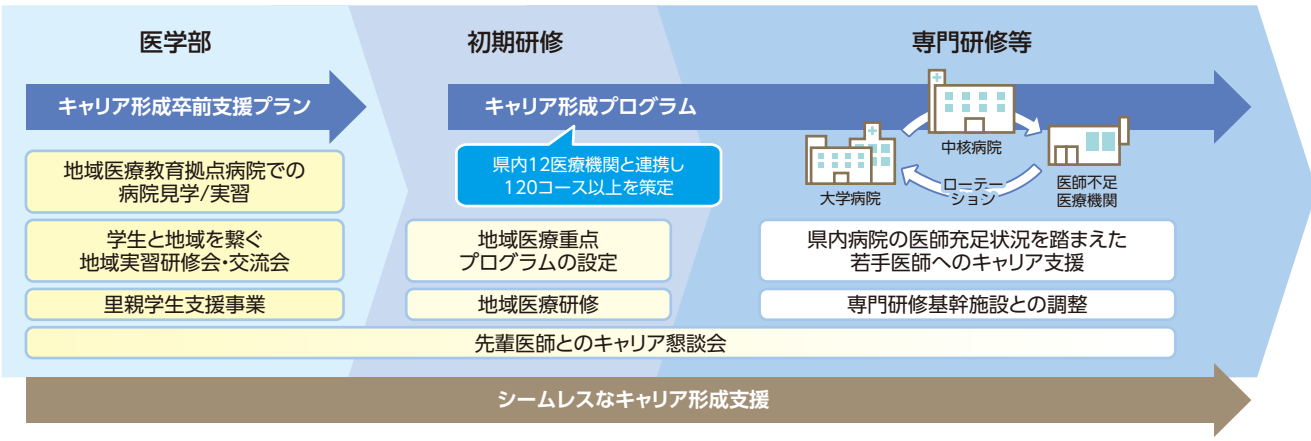
卒業後も続くシームレスな地域医療教育

卒後の地域医療

初期研修では、多くの診療所や病院にご協力いただき、充実した地域医療研修が行えるようなプログラムとなっています。また、将来滋賀県で働いていく上での医師としてのキャリアアップを支援するため、滋賀県とともに滋賀県医師キャリアサポートセンターを共同設立し、キャリアパスや取得可能な資格・技能を予め明示するキャリア形成プログラムを策定し、学生から若手医師までキャリア形成についての面談を行っています。

また、現在卒後教育で実施されている「滋賀県医師キャリア形成プログラム」に加えて、2022年度から、臨床研修マッチングに先んじて選考される「地域医療重点プログラム」が制度化され、その運用が開始されました。このプログラムの目的は、医師少数スポットにある地域の診療所において、指導医資格を有する医師の指導のもと、12 週以上の研修を行うことにより、研修医が臨床研修修了後に滋賀県内に定着することを促し、地域枠の医師が診療義務を課せられた地域で適切に勤務できるようにするためのものです。

今後も、滋賀県民の皆さまや滋賀県下の関係機関、同窓会の皆様にご協力をいただき、卒前・卒後のシームレスな地域医療教育を実践していきます。



病気も人も診る医療と日々の研鑽

私は1988年に滋賀医科大学入学、1994年に卒業、同年に消化器血液内科入局、滋賀医科大学医学部附属病院にて研修後、済生会吹田病院内科、京都第一赤十字病院消化器科、滋賀医大消化器内科助教を経て、2009年9月より内科・消化器内科医院を開院し、現在に至っています。

特徴は、鎮静剤を使用した消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査と同日のポリープ切除術、外来ベッドサイドでの腹部超音波検査を併用した診察・診断等です。

当院には滋賀医科大学を中心に毎年10名程の2年目医師に来て頂いていますが、診察所見、診断根拠、診断名等を患者さんに解説し、現時点での各診療ガイドラインや学会等でのコンセンサス等に基づいて診療を行うよう心掛けている姿を見てもらっています。

栗東はた内科医院　院長
畑 和憲